

事業名	担当
<p align="center">若者社会参画型学習推進事業 青葉区「若者によるまちづくり実践塾」</p>	<p align="center">青葉区中央市民センター</p>
<p>1 事業の目標 (ねらい)</p>	
<p>若者が様々な人々との出会いを通して、自己のものの見方や考え方を広げたり、地域への関心を高めたりできるように支援し、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる人づくりを推進する。</p>	
<p>2 事業内容 (手法)</p>	
<p>(1) 対象者 10代後半から30歳くらいまでの若者 (高校生や大学生、社会人、外国籍も含む) (2) 登録者数 13名 (大学生) (3) 活動内容 毎月1回程度 定例会を実施 【定例会の主な活動内容】 ・参加者による活動テーマや方向性の検討 ・フィールドワークの場所や取材対象を選定するための話合い 【今年度の主な活動内容】 ・「奥州街道マップ」(R3制作)の活用の検討 ・フィールドワーク・取材活動の実施 ・取材のまとめと振り返り ・青葉区「まち歩きまちづくり」フォーラムへの参加 ・成果報告会発表(生涯学習支援センター) ・年間の振り返り及び次年度計画作成 等 (4) 広報 ・活動紹介チラシの制作と配布 ・仙台市市民センター成果報告会での成果発表 ・青葉区中央市民センターHPへの掲載</p>	
<p>3 新型コロナウイルスによる影響</p>	
<p>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、リモート会議システムを活用しながら話合いや情報交換等を行った。 ・フィールドワークで収集した情報をまとめた動画を制作していたが、感染リスク回避を優先したため集まることができず、未完成に終わってしまった。(今年度のメンバーが引き継いで編集を再開する予定) ・「奥州街道マップ」に掲載する店舗に対し、一部は直接取材できたものの、多くは電話による間接的な取材となってしまった。</p>	
<p>4 令和3年度の実績</p>	
<p>・令和3年度は、テーマを「若者視点による青葉区の魅力発信」としたことで、参加者にとって取り組みやすく、意欲的に活動することができた。参画の度合いとしては、マップや動画の制作にも主体的に取り組むなど、事業担当者の支援の下、ほぼ若者主導による形で実施することができた。 ・年齢や学校が異なることもあり、初めは意見交換が滞るような場面もやや見られたが、次第に受講者の事業に対する意欲が向上していった。受講者が、自ら訪問先を選定し様々な人々への取材を行ったり、活動を通して得られた地域資源などの情報を発信するためにまとめたりする過程で、身近な地域に対する興味・関心の高まりや、「まち歩き」という新たな視点の獲得や視野の広がりを、自己の成長として実感できる事業となった。 ・令和3年度の成果報告会では、事業内容を広く市民に周知することができた。成果物である「奥州街道マップ」を区内市民センターに配架することで、「若者視点による地域の魅力」として発信することができた。※別紙参照</p>	

5 これまでの経緯（成果）

- ・平成25年度から青葉区中央市民センターにおいて「青葉区まちづくり実践塾」として実施。若者自身が地域課題を見つけ、その調査・整理・分析を行い、自分たちの取組を発信することで、「若者がまちづくりに関わっていく」という事業のねらいを達成することができるように取り組んできた。これまでの主な活動として、地域と若者をつなぐことを目的としたフリーペーパーの制作や当センター入口の巨大壁画制作、多文化共生への理解を促進することを目的とした「青中国際村かるた」の制作、「青中国際村交流会」を実施してきた。
- ・例年の参加者の振り返りに、本事業での活動を通して、地域社会へ参画することへの面白さ・やりがい・充実感を味わうことができたという言葉が見られ、参加者自身が変容を実感することができている。

6 課題・改善点（評価）

- ・各区中央市民センターの事業担当者による情報交換では、市民センターに足を運ぶ機会が少ない世代に対してどのようにPRをすれば参加者を継続的に確保できるのか、といった共通課題が挙げられている。

7 今後の展開・方向性

- ・今後も青葉区の「若者事業」では、これまで同様に年度初めの定例会で参加者自身に活動内容を検討させた上で、取り組ませていくことが望ましい。そうすることで参加者の主体性が高まり、地域に対する興味・関心が喚起され、将来の地域の担い手を育成することにつながっていき、市民センター事業の目的である「まちづくり」に資する人材を育成することにつながっていくものと考えている。